

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会	代表者	石橋 秀利	法人・事業所の特徴 仁摩町は自然豊かな環境に、約 15 分程度の移動半径に行政機関、商店、文化施設などがあるコンパクトシティです。仁万、宅野、大国、馬路の 4 地区それぞれに文化的個性があります。 法人は「個人の尊厳を尊重」、「地域福祉の増進」を基本理念に介護サービス、保育サービス、障害サービスを運営しています。 事業所は通いを中心に、泊り、訪問を柔軟に組み合わせて一体的に提供する小規模多機能型サービスを提供しており、独居者を中心に、生き甲斐活動も含めた生活全般のサポートに努めると同時に、地域住民間の互助の橋渡しに努めています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護事業所 ほほえみ	管理者	野際 智紀	

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	2人	0人	0人	1人	1人	0人	3人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>① 職員と地域との接点を増すことを目的に、利用者の居住地区の民生委員を事業所に招き、交流会を開く。</p> <p>② 自己評価の妥当性を高める。 a) 3か月ごとに改善活動の進捗状況を確認する機会を設ける。 b) 自己評価にかかる時間を 2 時間設ける。</p>	<p>① 実施に結び付きませんでした。11月に地区民生委員会と協議し、次年度に訪問活動を開催することで了解を得ました。</p> <p>② 事業所自己評価による改善目標を事業計画に落とし込んで継続的に進捗管理し、11項目の目標のうち、10項目で職員の70%以上から達成できたと評価を得ました。自己評価は2回の会議に分けて評価を行いました。</p>	<p>① 利用者居住区の民生委員に限定すると、日程調整が大変だと思います。 民生委員・利用者家族・区の役員などに範囲を広げては？</p> <p>② 職員さんからのネガティブ評価（否定的な見解）にも留意してください。</p>	<p>① より住んでいる地域の活動への参加を支援するために、仁万、宅野、馬路、大国を中心に地域で行われている行事について情報収集、掲示物作成し地域活動の見える化を進める。</p> <p>①-2 民生委員、地域住民を招いて地域活動について学ぶ機会を設ける。</p>

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>来客者が心理的に入りやすい玄関、サービスをイメージできる玄関への見直しをする。</p> <p>①チャイムボタンの案内表示 ②チャイムボタンを常に清潔に保つ ③玄関にサービスの概要を掲示する ④玄関のレイアウト見直し</p>	<p>① 来客者に聞き取りをしたところ、チャイムの場所については「分かりにくい」ということはない」との事でした。</p> <p>② チャイムのボタンの汚れを定期的に清掃、消毒しました。</p> <p>③ 重要事項の掲示を従来の台所そばから玄関に移動しました。</p> <p>④ 古い作品等を撤去し、広く使えるようにしました。使いにくかったピクチャーレールを移設し、玄関に重要事項を掲示しました。来客用スリッパのための下駄箱と靴ベラを用意しました。</p>	<p>・来訪時、あいさつの声も聞こえる</p> <p>・利用者からの相談や希望者からの相談を聞いていると聞いている</p> <p>・現状、介護問題に関する相談先としては、事業所単体への優先順序はそう高くないと思われます。管理者・ケアマネジャー・職員の個人的親密度が高まれば自ずと相談持ち込みも増えると思いますので、「ほほえみ」の「敷居の低さ」を磨いて下さい。</p>	<p>計画なし</p>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>自治会の草刈等、諸行事に参画する。</p>	<p>参加協力を打診するも、自治会長から依頼はありませんでした。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>認知症の人との地域共生を発信する RUN 伴イベントに参加します。またご家族等にも参加を呼びかけます。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>登録利用者が自分の住む地域の行事に参加できるよう支援する。</p>	<p>4月17日の仁万祭には仁万町民4名を参加支援しました。</p> <p>10月15日の宅野祭には宅野町民1名を参加支援しました。地域の方からたくさん声をかけていただきました。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>仁摩図書館玄関に生け花飾りつけをします（不定期）。</p> <p>仁摩保育園に利用者の作った雑巾、新聞ごみ袋を寄贈します。</p>

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>地区民生委員に新たに運営推進委員を委嘱し、事業所活動の地域理解向上を図る。</p>	<p>委嘱した方は好意的に会議に参加して下さっており、担当地区の利用者の情報が共有できるようになりました。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>計画なし</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>状況把握を安全かつ容易にするため、景観に影響しない護岸壁に水位の目印をつける。 避難時の携行品について携行方法を含めて再検討する。</p>	<p>昨年度取り決めた水害時の避難判断のための基準である避難準備（85センチ、管理者出動）、110 cm（避難開始）線を護岸壁に市の許可を得て目印を付けた。</p>	<p>住民としては日々の利便性ばかりがとかく気になりますが、地域に多くの要介護高齢者がおり、さらなる理解や配慮、助け合いが必要な時代と思います。 地域防災を推進するうえで、介護サービス事業者が感じている問題意識は重要な情報でしょう。地域にどんどん発信してほしいです。</p>	<p>避難経路沿いの独居、高齢者世帯（寺が内自治会、宮村自治会）に対して、緊急時の避難声掛けをする体制作りについて各自治会に提案します。</p>